人材育成担当・介護職のグループリーダー向け講習 開催！

介護プロフェッショナル
キャリア段位制度

平成30年度

アセッサー講習 受講者募集のご案内

昨年度までに全国で2万人を超えるアセッサーが養成されています。

アセッサー講習とは？

○国で定めた全国共通の介護の実践スキル評価項目を用いて、介護現場で実践スキルを評価する「アセッサー（評価者）」を養成する講習です。
○実践スキルの評価結果を用いた、介護職員のOJTを通じた人材育成方法についても学ぶ講習です。

第1期

集合講習日 9/27(木)

6/12(火)より受付開始!

申込期間 6/12(火)～7/11(水)
受講期間 8月上旬～9/27(木)
集合講習会場(予定) 青森県　東京都　神奈川県　静岡県　愛知県　大阪府　兵庫県　広島県　福岡県

第2期

集合講習日 12/11(火)

8/21(火)より受付開始!

申込期間 8/21(火)～10/1(月)
受講期間 10月中旬～12/11(火)
集合講習会場(予定) 北海道　宮城県　群馬県　東京都　石川県　長野県　岐阜県　愛知県　大阪府　鳥取県　岡山県　広島県　福岡県　鹿児島県　沖縄県

～介護職員のキャリアパス形成～

基本介護技術から高度な専門的介護の実践スキルの評価まで

■講習の構成

① テキスト学習
② eラーニング受講
③ トライアル課題実施
④ 集合講習受講

■講習費用

22,810円(税込)

【内訳】・受講料……19,980円（税込）
・講習指定テキスト代……2,700円（税込）※
・払込取扱手数料……130円（税込）

※キャリア段位制度取り組み事業所の皆様から新年度版テキスト購入の希望を多くいただきましたので、今年度より書籍とさせていただきました。なお、講習申込みの方は割引価格が適用されます。

お申し込み方法

ホームページよりお申し込みください。
http://careprofessional.org
介護キャリア段位　検索

■お問い合わせ

一般社団法人シルバーサービス振興会　キャリア段位事業部
TEL：03-5402-4882　FAX：03-5402-4884

アセッサーは20,000人超、全国で展開中!

約5,000名の介護職員の方の評価（OJT）を実施中!

介護プロフェッショナルキャリア段位制度

○介護職員の「介護の実践スキル」を介護事業所内のアセッサー（評価者）が評価し、その評価結果に基づいて介護の実践スキルレベルを認定する制度です。
○レベル認定者は全国共通の介護スキル評価基準に基づく認定者であるため、介護のスキルを全国で証明することができます。
○平成24年度に内閣府の実践キャリア・アップ戦略としてスタートし、厚生労働省介護職員資質向上促進事業を経て、介護職員の資質向上を目的とする事業として実施しています。

介護職員のOJTを通じた人材育成による人材の定着

介護サービスの質の確保と向上

アセッサー講習内容

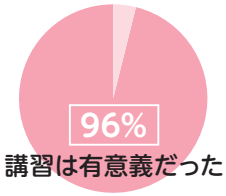
○科学的手続きを踏まえて抽出された「介護技術評価項目」の詳解
○根拠に基づいた介護としての評価方法について
○認知症症状の周辺症状のある利用者やターミナルケアが必要な利用者への対応、介護過程の展開等、専門性を活かした取り組みについて
○地域包括ケアシステムの取り組みについて
○評価と介護技術指導者としての役割とOJT実施方法　　など

講習受講者の声

アセッサーはただ評価する立場ではなく、人材育成の中心となり、今後の介護現場の成長を支えていくOJT指導の役割を担っていることがわかりました。

eラーニング、トライアル評価、集合講習を通して、しっかり学べる機会となりました。介護職としての専門性と役割が明確になりました。

講習受講者アンケート



96%の受講者が、講習は現場で指導を行っていく上で「有意義」と回答。

98%の受講者が、介護キャリア段位制度が、介護職員の資質向上のためのOJTツールとして活用できると回答。

施設・事業所の法人代表者・管理者からの反響

組織のキャリアパス導入に活用できました！

客観的な評価の仕組みを取り入れたため、職員のやりがいやモチベーションのアップにつながりました。
キャリアパス制度の導入で職員の定着率向上につながりました。
（訪問介護事業所　所長）

OJTを仕組みとしてビルトインできました！

キャリア段位制度の枠組みを用いて、事業所にOJTの仕組みを取り込むことができました。
（通所介護　法人代表者）

人材育成はリスク管理！

日々、「現場で発生しうる事態」に目を向ければ、OJTによる人材育成に取り組んでいくことはリスク管理そのもの。指導できる層の養成と確保は、今後の事業継続の生命線なのです。
（介護老人福祉施設　施設長）

事業所の人材マネジメントに役立ちました！

評価を通じてアセッサーと職員とのコミュニケーションが図られ、職員の良い点・可能性を発見する機会になりました。アセッサーの意識向上とともに、介護職員を指導できるスタッフとして育成されています。
（介護老人保健施設　老健部長）